

「飛ぶ鳥を落とす勢い」という言葉がある。中国の経済成長の著しきはまさにこの言葉に象徴され、かつてバブルの絶頂期にあった日本の勢いをしのぐほどである。中国経済を担う富裕層の人々は、自転車王国中国のイメージをも塗り替えた。外国製の高級乗用車に乗り、ブランドショップに通う彼らは、高品質を重視し、ブランド志向が強い。現在、海外旅行に費やす金額の最も多い国は日本であるが、中国は日本に次いで多額の金を使っているという。ショッピングの支出額で見ると、中国人は旅行予算全体の実に三分の一をショッピングに費やし、世界のトップに立っている。

しかし、つい二十年ほど前まで、中国人で海外に行けるのは、海外視察という名目の、ごく一部の幹部に限られていた。一般の中国人にとって香港とマカオへの親族訪問が、最初の海外旅行のようなものであった。当時、香港とマカオの行政権はまだイギリスとポルトガルにあつたため、中国人にとって外国のような存在であつたのである。文革時代には、香港や海外に親せきを持つ人は、政府の厳重な監視を受け、人々に敬遠さ

## 中国人と海外旅行

久場 未雲

れ、肩身の狭い思いをしたという。一九八〇年代、中国は改革開放という国策を打ち出し、中国人もやっと海外に行くことができるようになった。このころになると文革時代とは違ってかわって海外関係者は一躍人気者となった。九〇年代になると、東南アジア諸国がいち早く中国の観光客を受け入れ、「新馬泰旅行（シンカポール、マレーシア、タイへの旅行）」が瞬く間に富裕層のシンボルとなった。最近では、渡航手続きが簡単なヨーロッパが中国人にとって一番人気の旅先であると聞く。

海外旅行は、中国の庶民にとってはまだまだ高嶺の花で、海外にいけるのは沿岸部を中心にした大都市の富裕層に限られている。とは言え、近い将来海外旅行が富裕層の特権ではなく、一般の人々のレジャーになることは間違いない。十三億人口を有する大国の海外観光客が世界中にあふれる日はそう遠くない。

沖縄は中国と歴史的にも地理的にも近い関係にある。リゾートアイランドへの旅は中国人観光客にとって非常に魅力的だと思う。那覇空港が中国の観光客でにぎわう日を持ちたい。  
(会社代表)

